

「銀行再生」への提言

＝ 6 ＝

シブサワ・アンド・カンパニー
代表取締役

洪澤 健氏



◇しづさわ・けん
東京都出身、42歳。69年渡米、83年テキサス大卒、87年UCLAでMBA取得。ファースト・ボストン、J.P.モルガン・ゴールドマン・サックスなどを経て、96年ヘッジファンド大手のムーア・キャピタル、97年同社の

東京事務所代表。01年3月シブサワ・アンド・カンパニー代表取締役。リスクマネジメントの本質的なポイント①理念や目標を持ち②しがらみを捨て③攻めるとき④守るとき⑤タイミングを図ること⑥の5点に置く。

日本型資本主義の生みの親とも言われる実業家、洪澤栄一氏（1840-1931）。「いま生きていたなら」、今日の状況をどう見るだろうか。日本で初の銀行（第一国立銀行）をつくった栄一氏。不良債権との格闘を10年余りにわたって繰り返して、それでも問題を克服できない「いまの銀行界に何を思うのか」。栄一氏から数えて5代目に当たるファンドコンサルタント、洪澤健氏に「渋沢資本主義」の本質を聞いた。

銀行の現状をどう見ているか。洪澤 第一国立銀行の株主募集布告で「銀行は大きな川のようなもの。銀行に集まってこない金

ポイント

- ①危険と思われるぐらゐの大胆さも必要
- ②「智」・「情」・「意」のバランス取れた常識を持つ
- ③「前例がない」「組織に通らない」「サラリーマンだから」の言葉は行内から排除せよ

銀行が産業活性の原動力

「よどんだお金」を開放せよ

リスクテイクを積極的に

しても「組織に通らない」「サラリーマンだから」の言葉を行内で排除してはどうか。行員が新しいことに取り組むことの動機をつくる必要がある。優秀な人材を確保するために実績と報酬の一致をもっと急ぐべきだ。

「よどんだお金」を開放せよ。大きな流れをつくる必要がある。—— 栄一翁も嘆いていない。溜池の回りを固めている

「よどんだお金」を開放せよ。大きな流れをつくる必要がある。—— 栄一翁も嘆いていない。溜池の回りを固めている

歴史は繰り返される。銀行のあるべき姿について。

「前例がない」—— 銀行が取り組むべきポイントは何か。

「前例がない」—— 銀行が取り組むべきポイントは何か。

「よどんだお金」を開放せよ。大きな流れをつくる必要がある。—— 栄一翁も嘆いていない。溜池の回りを固めている

「よどんだお金」を開放せよ。大きな流れをつくる必要がある。—— 栄一翁も嘆いていない。溜池の回りを固めている

歴史は繰り返される。銀行のあるべき姿について。

「前例がない」—— 銀行が取り組むべきポイントは何か。

「前例がない」—— 銀行が取り組むべきポイントは何か。

「よどんだお金」を開放せよ。大きな流れをつくる必要がある。—— 栄一翁も嘆いていない。溜池の回りを固めている

「よどんだお金」を開放せよ。大きな流れをつくる必要がある。—— 栄一翁も嘆いていない。溜池の回りを固めている

歴史は繰り返される。銀行のあるべき姿について。

「前例がない」—— 銀行が取り組むべきポイントは何か。

「前例がない」—— 銀行が取り組むべきポイントは何か。

「よどんだお金」を開放せよ。大きな流れをつくる必要がある。—— 栄一翁も嘆いていない。溜池の回りを固めている

「よどんだお金」を開放せよ。大きな流れをつくる必要がある。—— 栄一翁も嘆いていない。溜池の回りを固めている

歴史は繰り返される。銀行のあるべき姿について。

「前例がない」—— 銀行が取り組むべきポイントは何か。

「前例がない」—— 銀行が取り組むべきポイントは何か。

7月1日「銀行の日」

「銀行条例」が施行された日